

1 当院における(1→3)-β-D-グルカンの依  
2 頼状況と血液培養結果との比較

3  
4 ○本田早織、清宮正徳、村田正太、吉田俊彦、  
5 澤部祐司、野村文夫（千葉大学附属病院検査部）

6  
7 **【背景と目的】**(1→3)-β-D-グルカン（以下β-D-  
8 グルカン）は深在性真菌症の診断に広く用いられて  
9 いる。当院におけるβ-D-グルカンの依頼状況の調査  
10 および血液培養成績と比較することを目的とした。

11 **【方法】**対象は、当院において2013年7月～9月ま  
12 での3カ月間にβ-D-グルカンまたは血液培養が依  
13 頼された1783症例および、2012年1月～2013年9  
14 月間に血液培養で真菌が検出された11症例である。  
15 β-D-グルカンの測定はβ-グルカンテストワコーお  
16 よびトキシノメーターMT-358、血液培養はBactec Fx、  
17 真菌の同定は主に生化学性状検査（ID 32 Cアピ）  
18 又は質量分析計（MALDI-Biotyper）を用いた。

19 **【結果】**3カ月間のβ-D-グルカンの依頼状況（内訳）  
20 は内科・外科ではそれぞれ1565・218症例、外来・  
21 入院は1249・534症例、また血液培養の依頼状況は  
22 内科・外科ではそれぞれ1052・284症例、外来・入  
23 院は148・1188症例であった。

24 β-D-グルカンおよび血液培養がほぼ同時に依頼  
25 された96症例のうち、β-D-グルカンおよび血液培  
26 養（真菌）の両者陽性は11症例、β-D-グルカンの  
27 み陽性は17症例、血液培養（真菌）のみ陽性は5  
28 症例、そして両者とも陰性は60症例であり、培養陽  
29 性症例におけるβ-D-グルカンの陽性率は69%であ  
30 った。β-D-グルカンのみ陽性の17症例中14症例は、  
31 抗真菌剤がすでに投与されていた。

32 **【考察】**当院では、深在性真菌感染症のスクリーニ  
33 ングとして、血液培養よりもβ-D-グルカンが多く依  
34 頼されていた。さらに、β-D-グルカンは抗真菌剤が  
35 投与されている深在性真菌症患者の診断に有用であ  
36 る可能性が示唆された。血液培養陽性でβ-D-グルカ  
37 ンが陰性であった症例については、今後原因を詳細  
38 に調査する必要がある。

39 連絡先：043-226-2328